

イーグルスミコーポレーション

イーグルスミコーポレーションは、2020年度に単体290億円、グループ335億円の売上高を目指す5カ年の中期経営計画を推進している。住吉徹社長は「商材の高付加価値化を推進し、前期は初めて売上高総利益率4%を超えた」と強調する。

電子材料、塗料インキ原料、医療の3分野に注力しており、昨年1月に

電子材料部と塗料インキ原料部を設置した。電子材料部はFPD(フラット

付加価値路線で利益向上

トパネルディスプレイ)、基板、パワーモジュール用、塗料インキ原料部はUV関連の高付加価値の商材販売強化に努めた結果、16年12月期決算は為替などの影響で減収とな

門に合弁会社がある。中国事業は3期連続黒字となった。上海は日系の顧客向けに電子材料を販売しており、販売を増す余地がまだある。廈門は現地顧客にスマートフォン

スト(EST)は、EAGLE SUMIに商社・貿易を意味するTradingを加えたEAGLE SUMI TRADINGの頭文字を取った。英語でESTがつく

つたものの、利益面では売上高総利益率の向上にコスト削減と合理化も加わり増益を計上した」と着実に取り組んでいる。海外は上海、香港、韓国に現地法人、中国・廈門に現地法人、中国・廈門に変更する。住吉社長は「エ

向きの塗料原料を販売している。ここでは電子材料と塗料原料のシナジーを発揮させたい」という。なお、同社は来年から社名を「エストケム」に

と最上級の意味になることから、メーカー様や取引先様に私たちの力が加わることで、素材や製品を最上級にする、素材に付加価値をつけるという想いを表現した。化学に携わる企業であることをわかりやすくするため、イーグルの略、CHEMを配した」と説明する。